



9日（土）の全国海洋教育サミットの報告その2

二人目の講師は、キリバス協会代表理事のケンタロ・オノさん。仙台に生まれ、23歳の時にキリバスに帰化した方です。

キリバスは、太平洋の赤道近く、人口11万人の島国（島の数33）です。国旗は、「海と生き、海に生かされる国」という意味があるそうです。

主食は魚と輸入したお米だということです。世界の最貧国の一つですが、それより大きな問題は、地球の温暖化です。最近、今まで経験したことがない嵐、高潮が増えてきて、土地が削られてしまっているそうです。国土の97.7%が、海拔2m以下なので、高台へ逃げるといったことができないとのことでした。

今回のサミットで、若いみなさんが真剣に考えてくれている姿を見て希望を見た、と結ばれました。

ポスターセッションの終了後、上宮田小学校の児童が、全65の発表の代表としてステージに上がり、感想を述べるシーンもありました。

また、東北大学の須賀利雄教授は、地球の熱の93%は海に蓄積される、地球の温暖化は、実は、海の温暖化だということ、身近な海、地域の海は世界の海と繋がっているという意識が必要であること、などの指摘をされました。

最後に、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの日置光久特任教授が、海は、思考力を育成する大切な教材であること、日本は海と宿命的に切っても切れない関係にあることを強調されました。



19日（火）、上宮田小学校の3年生が、ワカメの授業を受けました。

最初に、神奈川県水産技術センターの職員の方が、ワカメの体の仕組みについて説明してくれました。子どもたちは、ワカメをお湯でゆでると、あつという間に緑色になったのを見て、歓声を上げていました。

続いて、質問コーナーになり、三浦市のワカメの生産量が80t（28年度）であること、今年は、例年の半分くらいの出来であること、ワカメは2mくらいまで成長すること、漁師さんが売るときには1kg 300円くらいであることなどが分かりました。

上宮田漁協の皆さんが、ワカメを袋に詰めて、子どもたちに、おみやげとして持たせてくれました。



（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで